

プレスリリース

2011.05.24

西友、業界初の多店舗エネルギー・トータルマネジメント・システムを導入

店舗消費エネルギーの「見える化」と「削減」を推進

合同会社西友は、多店舗を一元管理することが可能な「多店舗エネルギー・トータルマネジメント・システム（以下、多店舗EMS）」を2011年末までに西友の全店370店舗へ導入することを発表しました。

今回、全店舗に導入予定の多店舗EMSは、三洋電機株式会社（本社：大阪府守口市）により開発されたもので、西友の店舗向けに最適化されています。照明、空調、冷凍・冷蔵機など、店舗運営のために必要なエネルギー消費の大半を占める設備機器をネットワークで結び、一元管理を実現、遠隔地からの制御を可能にした全店舗対象の統一システムです。同システムの導入により、電気、ガス、水道などの消費エネルギーの「見える化」が可能となり、設備稼働状態の監視と制御、また、異常警報の受信の精度が大幅に向上します。現在、店舗ごとに個別の消費エネルギー管理を行っている西友では、同統一システムの導入により、各店舗の消費エネルギーを一元管理し、設備運営の見直しなど、有効施策をタイムリーに立案、実行に移すことでエネルギー削減に向けての取り組みを大きく加速していきます。

これまで小売業においては、大型一店舗を全館ネットワークで結ぶ、もしくは、数店舗レベルの店をネットワークで結び一元管理をするというシステムは稼働していましたが、全国約400店舗の主要設備機器をネットワークで結び一元管理するシステムとしては、業界で初めての実働となります。

1) エネルギーの見える化

照明、空調、冷凍・冷蔵機など、各設備のエネルギー消費実績がリアルタイムに計測できるようになり、実測データに基づく効果的な省エネ対策が可能になる

2) 設備稼働状態の監視と制御

冷凍・冷蔵機の温度、冷暖房運転・停止、照明機器の点灯・消灯などの状態が遠隔地より確認、制御できるようになり、本部一元管理による業務の効率化が図れる

3) 異常警報の受信

火災、ガス漏れ、設備異常などの警報受信が可能となり、保守メンテナンスと危機管理の効率化が図れる

2010年8月より既に関東を中心に数店舗にてパイロットプログラムを実施しており、現時点では23店舗に導入、2011年末までには西友の全店370店舗にて導入が完了する計画です。西友では、今回の取り組みを推進することで、今後5年間で現在の全店舗における消費エネルギーの約20%を削減することを目標としています。

西友では、「Saving people money, so they can live better.（お客様に低価格で価値あるお買物の機会を提供し、より豊かな生活を実現する）」というミッションのもと、親会社のウォルマートと共に、「エネルギー」分野に加えて、「廃棄物」、「商品」、「コミュニティ」、「従業員」に関する取り組みなど、サステナビリティ活動（持続可能な社会の実現）に幅広く取り組んでいます。詳しい取り組み内容や実績については、西友ホームページ内「サステナビリティ・ページ」をご覧ください。 <http://www.seiyu.co.jp/company/sustainability/>

■ 三洋電機株式会社については以下のURLをご覧ください

URL：<http://panasonic.co.jp/sanyo/>